

フォーティーズ便り

発行:横濱フォーティーズ野球倶楽部 報道部編集 http://www.office-thank.com/~forties/

特集 第20回全日本生涯野球大会 平成20年6月7日~8日 長野県上田市・小諸市



おとうさんの甲子園 上田町・小諸市

生涯野球、今回初めてマイクロバスをチャーターしての遠征。車内は豪華なサロンルーム付き、還暦を過ぎた親父軍団。有馬監督率いる総勢16名、意気軒昂。寿野球とは違い、2日間で3試合を行う。その為早朝横浜を出発。運転手付き、でも到着後すぐに試合が待っているとあってアルコール類は禁止。生涯参加者は品行方正然程飲兵衛もおらず、信州までの長丁場和気藹々と野球談義(自慢話)に盛り上がる。高速道80km、制限速度をキッチリ守っての(余裕?)安全運転。横川SAで時間調整兼トリ飯弁当を仕入れ、上信越道、八風山トンネルを通り過ぎて佐久I.C.から国道18号線へ。今回我チームの試合会場となる小諸市に早めに辿り着く。あの島崎藤村の詩"小諸なる 古城のほとり雲白く 遊子逃しむ..."詩碑のある懐古園の南端に位置し周囲が新緑萌える公園の森に囲まれた素晴らしい整備公式球場「南城公園野球場」高校球児が夏の甲子園大会の県予選に使用しているグラウンド、ここで2日間で3試合ベンチ移動することなく腰を据えて試合が出来る。丁度1試合目が始まるころ。曇り空、寒くもなく暑くもない。観覧席に陣取って仕入れてきた弁当を頬張りながら観戦。さあ腹ごしらえも出来た。初戦山梨の富士吉田チームと13時30分予定通り戦闘開始。先攻逃げ切り、2回岡崎が出合頭の一撃は右中間を破り、3回は石井が左翼を越え共にフェンスまでコロがる信州で初めての嬉しいホームランを放つ。4回山梨に集中打を浴びて逆転されるが、今大会ラッキーボーイの石井が5回決勝の押し出し四球で再度逆転して明日に夢をつなぐ。試合終了後、慌しく上田市営球場の開会式場へ移動する。16時30分丁度式が始まる所。第20回の記念大会。全国各地から175チーム選手人数約4000人が集結。最高年齢88歳、平均年齢61.18歳。正しく生涯現役、野球大好き人間の集まり。今回全チーム内野フィールドに175チームが2段重ねに整列。今年も名コンビの進行、ユーモラスに富んだ名調子。大会会長大塚氏、若さを保って元気な古葉元広島監督、あぶさん監督水島さん、来賓その他大勢、いつも通りの1分スピーチが続く中帰りの混雑に巻き込まれないように早めの退場も前面に来賓が陣取っている為至難の業。それでもいつも通りのお土産買ったさ、店の閉店18時に間に合ってほっと一息。3年連続ホテルプラトン(上山田温泉)宿泊。カラスの行水。さあ一と湯を被って今年もビールで乾杯。明日は2つ勝って優勝旗をもって帰ろう。

A10リーグ

【2日目】6月8日 日曜日

【1日目】6月7日 土曜日

第1試合 13:45~ 南城公園野球場(小諸) 富士吉田還暦野球C x フォーティーズ

第2試合 08:30~ 南城公園野球場(小諸) ニューエルダーズ x フォーティーズ
第3試合 12:00~ 南城公園野球場(小諸) 国立フレンド・シニア x フォーティーズ



第1試合 6/7(土) 13:45 南城公園野球場 岡崎・石井 信州で初HRを放つ 石井 値千金の押し出し四球V打

Scoreboard table showing runs, hits, errors for Forties and Fujiyoshida teams.

勝 森

敗 糸房

V打点: 石井

本塁打: 岡崎1号・石井1号(横濱)

三塁打: 勝俣・金谷(富士吉田)



Player statistics table for the Forties team (投手, 守, 打数, 安打, 得点, 打点).

Player statistics table for the opponent team (投手, 守, 打数, 安打, 得点, 打点).

※守備位置はスタート時

Summary statistics table for both teams (投手, 回数, 安打, 三振, 四球, 失点).

両翼92m中堅122mの素晴らしい整備の公式球場。外野手が抜かれたら楽々ホームランになる。それを絵に書いた様に実証。我軍2回1死後岡崎が右中間を深く破る先制ソロ本塁打で幸先よく得点。3回は2死から石井の左翼の頭上を越えて転々と転がるソロ本塁打で2点目を加える。その裏富士吉田は9・11番が安打で出塁しての2死二・三塁で先発塚田の暴投で1点を返す。4回は2番手森に襲いかかる。13番が敵失で出塁し1死後2番土橋と代打の堀内が三遊間、4、5番の勝俣が右越、金谷が中越に共に適時三塁打と4連打とたたみかけ3点を奪って逆転。5回我軍先頭の塚田が左前打、小林孝が右前打でつなぎ、福島が敵失で出塁しての1死満塁から鈴木謙が四球、渡利三振で2死となるが森と石井が粘って四球を選んで糸房の制球の乱れに乗じ3つの四球で再逆転に成功。辛くも逃げ切り明日への夢をつなぐ。

第2試合 6/8(日) 08:30 南城公園野球場

鈴木謙 打者を手玉に取って好投  
塚田→鈴木のリレーで完封勝ち

	(1)	(0)	(0)	(1)	(1)	(2)	計	安打
フォーティース	0	0	1	1	0	1	3	(5)
ニューエルダース	0	0	0	0	0	0	0	(4)
	(埼玉)	(1)	(1)	(2)	(0)	(0)	(0)	

勝 塚田 S 鈴木 敗 河野

二塁打: 丹羽・加藤(ニューエルダース)



守	氏名	打数	安打	得点	打点
6	丹羽	2	1	0	0
3	飯田	2	0	0	0
2	山下	2	0	0	0
5	高麗	2	0	0	0
8	鈴木	2	0	0	0
4	加藤	2	1	0	0
7	伊藤	2	0	0	0
9	富柳	2	0	0	0
1	河野	2	0	0	0
D	平野	2	0	0	0
D	塩野	2	1	0	0
D	石井	2	1	0	0
D	高橋	1	0	0	0
チーム計		25	4	0	0

守	氏名	打数	安打	得点	打点
6	太刀岡	3	1	1	0
2	西岸	2	0	0	0
5	大西	2	0	0	1
D	徳村	1	1	0	0
1	塚田	2	0	0	0
8	岡崎	2	0	0	0
9	小林孝	2	1	0	0
3	福島	1	0	0	0
D	鈴木謙	1	0	1	0
7	石井	1	1	1	0
4	渡利	1	0	0	0
PH	秋山	1	0	0	0
D	森	2	1	0	1
D	小林一	2	0	0	0
チーム計		23	5	3	2

※守備位置はスタート時

投手	回	安	三	四	失	投手	回	安	三	四	失
氏名	数	打	振	球	点	氏名	数	打	振	球	点
河野	3	1	4	1	1	塚田	3	4	2	0	0
加藤	3	4	4	1	2	鈴木謙	3	0	0	0	0
チーム計	6	5	8	2	3	チーム計	6	4	2	0	0

我軍3回鈴木謙が四球で出塁し、石井が送り、渡利の遊ゴロを一塁悪送球の間に鈴木謙好走塁で生還し先制。4回は太刀岡が右前打と盗塁を決めた後2つの内野ゴロで加点。6回は石井が左前打と盗塁の後森の右前適時打で理想的に得点を重ねる。投手陣も先発塚田が初回先頭打者にいきなり左越二塁打されたが送りバントが守備妨害でピンチを免れる。2・3回も走者を出すも要所を抑えて次の投手へ繋ぐ。4回からの鈴木謙は各打者の胸元に速球を決め味方の2つの送球ミスがあったが11人総て内野ゴロに打ち取る完璧な投球。素晴らしい内容で打者を寄せ付けず完封リレーで快勝。さあ次は決勝戦。頑張ろう。



●遠征参加メンバー●

- 監督 有馬 一興 (港南)  
 主将 大西 直良 (浜風)  
 中筋 宏 (浜風)  
 秋山 弘 (浜友)  
 福島 武男 (港南)  
 塚田 惣治郎 (湘南)  
 岡崎 四郎 (浜風)  
 西岸 正次 (港)  
 小林 孝雄 (浜友)  
 渡利 阡蔵 (浜友)  
 太刀岡 正 (港南)  
 徳村 保博 (湘南)  
 森 文男 (浜友)  
 鈴木 謙一 (浜翔)  
 石井 公明 (浜翔)  
 報道 小林一三六 (浜風)



第3試合 6/8(日) 12:00 南城公園野球場

完敗で又も優勝旗はお預けに  
石井 10割の活躍も及ばず  
国立:原田一人にやられる

	(1)	(1)	(1)	(0)	(0)	(2)	計	安打
フォーティース	0	0	1	0	0	0	1	(5)
国立フレンドS	2	1	0	1	0	X	4	(7)
	(東京)	(2)	(3)	(0)	(1)	(1)		

勝 原田 S 長島 敗 塚田

V打点: 原田 本塁打: 原田1号(国立)

三塁打: 原田(国立) 二塁打: 大場(国立)



守	氏名	打数	安打	得点	打点
5	小林忠	2	0	0	0
4	徳淵	1	0	1	0
6	丸山	2	0	0	0
2	北島	2	1	1	0
1	原田	2	2	1	3
D	岸野	2	0	0	0
9	大場	2	1	1	0
3	若松	2	0	0	0
8	木村	2	2	0	0
7	長島	2	1	0	1
D	広田	2	0	0	0
D	原	0	0	0	0
D	白石	1	0	0	0
チーム計		22	7	4	4

守	氏名	打数	安打	得点	打点
6	太刀岡	2	0	0	0
2	西岸	1	1	0	0
5	大西	2	0	0	0
D	徳村	2	0	0	0
1	塚田	1	0	0	0
8	岡崎	2	1	0	0
9	小林孝	2	0	0	0
3	福島	2	0	0	0
D	鈴木謙	2	0	0	0
7	石井	2	2	1	0
4	渡利	1	0	0	1
PH	秋山	1	0	0	0
D	森	2	1	0	0
D	小林一	2	0	0	0
チーム計		24	5	1	1

※守備位置はスタート時

投手	回	安	三	四	失	投手	回	安	三	四	失
氏名	数	打	振	球	点	氏名	数	打	振	球	点
原田	3	3	6	0	1	塚田	3	5	4	2	3
長島	3	2	2	2	0	森	2	2	0	0	1
チーム計	6	5	8	2	1	チーム計	5	7	4	2	4

我軍初回西岸が右前打で、大西が敵失で出塁しての1死一・二塁の先制の好機を後続2者が三振に倒れる。その裏国立は2死二・三塁から5番原田が左翼頭上を破る適時三塁打で2点先制。2回はこの回先頭の大場が左翼線を破る二塁打の後木村の中前打と盗塁を決めての1死二・三塁で10番長島の適時内野安打でつなく加点。我軍3回石井の右越三塁打と渡利の内野ゴロで1点を返す。4回国立は代った森から又も原田が左中間を深々と破るソロ本塁打で決定的な4点目を奪う。我が軍も終回粘りを見せる。この大会大当り、ここまで打率10割の石井が1死から内野安打で出塁、秋山三振で2死となるが森が三遊間を破って一・二塁も小林一が敢え無く三振に倒れて万事休す。原田投打に一人舞台。優勝旗は来年にお預け。